



— 復興会館第1号「豊野ふれあい館」開所式 — 役目を終えた仮設住宅を有効活用

8/25 甚大な被害をもたらした熊本地震から5年。豊野町の復興会館「豊野ふれあい館」の開所式が行われました。復興会館は、役目を終えた仮設住宅の解体で生じた廃材や電気設備などを再利用し建設されたもので、同館が市内初の完成です。今後は豊野町老人クラブ(長田政敏会長)が管理運営を行い、地域のコミュニティー

① 地域の活性化に活用していただくようあいさつする守田市長 ② 復興会館の外観 ③ 男女別に設置されたトイレ ④ 再利用された流し台

の場として活用されます。

施設は木造平屋の床面積54.65㎡。仮設住宅の柱やキッチン、照明器具などを再利用し、会議室や給湯室などに設置。

同老人クラブの長田会長は「集いの拠点となるよう、地域住民に開かれた場所にしていきたい。」と意気込んでいました。



これからの活躍を祈念してグータッチ

— 市や熊本の魅力を世界に — 海外モデル松村さんが市役所を訪問

9/9 パリで活躍中のモデル、松橋町の松村佳奈さん(28)が市役所を訪れました。松村さんは、25歳でモデルへ転身。現在雑誌の表紙や広告モデルとして活躍していることを市長に報告。また、松村さんが「地元宇城市や熊本を発信するお仕事もしていきたい。」と伝えると、守田市長は「ぜひ、市の顔となっていきたい。」と激励しました。



車いすを寄贈した(株)九州エフ・シー・シーの新谷社長(右)

— 車いすの寄贈で地域に恩返し — 地元企業として地域に寄り添い貢献

9/1 市誘致企業の(株)九州エフ・シー・シー(新谷元代表取締役社長)が地域貢献やSDGsの取り組みの一環として市へ車いすを2台贈り、市役所で寄贈式が行われました。守田市長は「本庁舎の車いすが古くなっており、大変助かります。また、『住み続ける』まちづくりの一助になり、ありがたい。」と感謝を述べました。

市ホームページには、
たくさんの写真と詳しい
内容を掲載しています。



ま ち の わ だ い
T O P I C S



左から守田市長、石田熊本支店長、浜村医薬部長

— 大塚製薬(株)と包括連携協定締結 — 健康増進で生活向上を目指します

8/3 市と大塚製薬(株)は、市民の健康維持増進や災害対策を相互に連携し取り組むため、包括連携協定を締結しました。この協定で市と「人々の健康をカラダ全体で考える」同社が共同で、市民生活の向上を目指します。石田清熊本支店長は「さしより野菜事業に取り組む健康意識の高い市と共に、新たな事業展開をしていきたい。」と語りました。



講師は観光ガイドの会の齊藤万芳さん(中央)

— もっと知りたい三角西港教職員研修会 — 世界文化遺産「三角西港」に学ぶ

8/2 三角西港で、市内の教職員を対象に、世界文化遺産「三角西港」に関する研修会が行われ、講話とフィールドワークが実施されました。これは三角西港の歴史や文化的価値を広く周知し、「子どもたちの誇りや地域愛」につながるよう市が実施したもの。参加者からは「ぜひ授業に生かしたい。」など時節到来の感想が聞かれました。



要望書を提出した浅井理事長(中央)と近野副理事長(右)

— 市シルバー人材センターが要望書提出 — 高齢者の雇用の安定を求めて

9/1 市シルバー人材センター(浅井正文理事長)が「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」改正に伴うセンターの取り組み強化のため、事業発注の確保や安定的な事業運営への措置を求め要望書を守田憲史市長に提出しました。守田市長は「高齢者の働く意欲や地域活性化につながるよう努力します。」と回答しました。



長崎川から取ってきたカワニナを放流する子どもたち

— ホタルの里湧水池にカワニナ放流 — ホタルがたくさん育ちますように

8/7 不知火町の長崎子ども会(中村真美会長)と農地水保全隊(川崎誠代表)ら約20人がホタルの里湧水池で、ホタルの幼虫が餌とする巻き貝のカワニナを放流しました。川崎代表は「子どもたちが地域の豊かな自然を理解するとともに、SDGsにもつながる生物多様性の保全活動として子どもたちに引き継いでいけたら。」と話していました。